

『明日を創る』人材の育成を目指す本校のESD

北海道明日中等教育学校

校長 五十嵐 晋

担当者 小島 啓一

1 趣旨・本校のESD活動の特徴

公立学校として北海道初の中等教育学校である本校は、開校の精神を「明日を創る」とし、平成19年4月に開校した。この開校の精神のもと、①「高い知性」②「豊かな人間性」③「健康な心身」④「郷土愛と国際性」の4つを身に付けた生徒の育成を教育目標に掲げ、中等教育学校ならではの長を生かした教育課程を編成・実施してきた。また、平成21年度には、道立学校としては初めてユネスコスクールとして認定され、本校の特色の一つである国際理解教育の一層の充実に努めてきた。さらに、平成26年度からは、文部科学省のスーパーグローバルハイスクール（SGH）の指定を受けたことにより、将来、国際社会で活躍するグローバルリーダーとして『世界の明日を創る』人材の育成に取り組んでいる。

本校の国際理解教育は、コミュニケーションツールとしての外国語教育を重視しながら、異文化理解に関わる体験学習を6年間の教科学習、総合的な学習の時間、特別活動を通じて系統的に展開しており、これらの機会を生かして、異文化理解、自国の文化、国際社会の現状や課題への理解を深めている。加えて、これらの諸活動とユネスコスクールとしての活動の関連を図りながら、文化祭などでは、ユネスコスクールとして活動を地域に紹介する形で「ユネスコ展示」を実施している。

2 活動全体計画…次ページ「ESDカレンダー（2016）」参照

3 活動事例

（1）教育課程に位置付けられた活動の例

- ① 地域ウォッチング…登別温泉について調査・取材し壁新聞を作成・発表（8-10月 1回生 総学）
- ② イングリッシュキャンプ…オールイングリッシュの生活・体験活動（7月 2回生 特別活動）
- ③ 道外見学旅行…福島県プリティッシュヒルズでの語学研修（12月 3回生 特別活動）
- ④ 海外見学旅行（アムカガ）…ホームステイや姉妹校訪問（12月 5回生 特別活動、総学）

（2）文化祭ユネスコ展示を通しての活動の例

- ① 貧困、戦争、世界遺産、食料と飢餓問題、教育等のテーマに関する展示、募金ブースの設置
- ② 売り上げを東日本大震災の被災地へ就学支援金として寄付する「AkebiTシャツ」の販売
- ③ 上級生が作った上記の展示を見て学んだことを1回生がワークシートにまとめる学習活動

（3）室蘭ユネスコ協会と連携した活動

- ① 書き損じはがき回収、世界寺子屋運動の募金活動への参加、地域フォーラムへの参加
- ② ユネスコ協会主催の海外スタディーツアー…これまでヨーロッパ、カンボジア、韓国など

（4）スーパーグローバルハイスクール関連の主な活動

- ① 日本および世界の食糧問題についての大学教員等による講演・ワークショップ（4・5回生）
- ② 課題研究…独自に設定したテーマでの研究および発表、英語レポート作成（4-6回生）
- ③ 海外フィールドワーク…5大陸での農業事情の視察とディスカッション、報告（4-6回生）
- ④ テレビ会議…オーストラリアの高校生との交流とディスカッション（4回生）

北海道登別明日中等教育学校 ESDカレンダー（2016）

月	回生	教科	行事	総学	他	行事および教科・領域	内容	活動の領域								
								国際理解	自国文化理解	食糧	郷土	共生社会	環境	教育	民主主義	
4	1			○		学習ガイド	本校のESDについて学ぶ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
4	1			○		宿泊研修準備	異年齢交流で集団生活について学ぶ							○		
4	4			○		異年齢交流準備	下級生に集団行動の大切さを伝える							○		
4	4-5	○				SGH課題研究プロジェクト	1月までの間で自ら課題を設定し、調査研究を行う			○						
4	1-6			○		対面式	学校の全体像について理解する（動機付け）							○		
5	1	○				理科	南極からみる地球環境							○		
5	1			○		宿泊研修	異年齢交流で集団生活について学ぶ							○		
5	2	○				美術（環境ポスター）	グラフィックデザインについて学び作品を制作する。							○		
5	2			○		日本紹介準備	日本の良さについて調査する		○							
5	3	○				美術（和菓子制作）	日本独自の表現技法を生かし樹脂粘土でモデルを制作する	○								
5	3			○		世界と日本関わり発表準備	世界と日本の関わりについて調査する	○								
5	4			○		宿泊研修（異年齢交流）	下級生に集団行動の大切さを伝える						○			
5	4	○				SGH講演	北海道農政部講演			○						
5	5	○				選択基礎中国語（文化）	中国文化を日本文化と比較して言語の背景にある事象を学ぶ	○								
5	6	○				選択音楽（各国の音楽）	作品の背景の文化や社会状況を把握しながら演奏したり鑑賞する	○								
6	2			○		イグ リックキャンプ	オールイグ リックで生活を行う						○			
6	2			○		留学生へ日本紹介	留学生に効果的に英語で伝える方法を学ぶ	○	○							
6	4	○				SGH講演	JICA講演	○		○						
6	5			○		小論文学習	学びの意義、自分と社会、労働の意味について学ぶ									
7	1			○		文化祭ユネスコ展示	課題展示（環境問題、格差の問題等）の展示物から学ぶ	○		○			○	○	○	○
7	3	○				美術（美術の歴史）	ジャコブ・ゴッムの作品より日本の美術の魅力と影響を学ぶ		○							
7	4	○				SGH講演	JETRO北海道 講演			○						
7	1-6			○		文化祭	異年齢やHR活動から役割を果たす						○			
8	1			○		地域カッチャグ 準備	地域を題材に課題解決能力を育てる					○				
8	2			○		職業調べ	職業に就くための方法について調査する									
8	3			○		社会について	学びと社会の繋がりに関して理解する						○			
8	4	○				選択音楽（各国の音楽）	作品の背景の文化や社会状況を把握しながら演奏したり鑑賞する	○								
9	2	○				音楽（声の役割）	作曲家や楽曲の背景となる文化や歴史を理解し表現を聴きとる	○								
9	4			○		小学生との英語交流	英語を教える方法を考え、授業を行い、成果や課題をまとめる	○								
10	1	○				社会（北海道の地理）	北海道の地域的特色を理解する。					○				
10	1			○		地域カッチャグ	登別温泉地区での体験学習（見学・体験・インタビューなど）					○				
10	2			○		職場訪問	勤労観や職業観について調査する						○			
10	3			○		学部学科研究	上級学校の学びについて調査する								○	
10	3			○		大学訪問準備	大学の学びについて事前調べを行う								○	
10	6	○				倫理（環境倫理）	現代の課題を考える（「環境と環境倫理」）							○		
10	1-6			○		体育祭	異年齢やHR活動から役割を果たす							○		
10	1-6			○		地域との連携	「世界食糧デー登別大会」への協力と参加	○		○						
10	4-5			○		SGH海外フィールドワーク	オーストラリア（4回生）、ドイツ（5回生）	○		○						
11	1	○				音楽（アジアの音楽）	アジアの音楽と芸能の特徴を理解する。	○								
11	1			○		北海道紹介	北海道調べから課題解決能力を育てる						○			
11	1			○		北海道紹介発表	効果的に伝える方法を学ぶ（ポスター・壁新聞による）						○			
11	2			○		職場訪問発表準備	効果的に伝える方法を学ぶ						○			
11	3			○		大学訪問	効果的に伝える方法を学ぶ						○		○	
11	3			○		数学、社会、家庭	英語以外の教科を英語で学ぶ	○							○	
11	4			○		宿泊研修（イカ・ソウダ）	北海道の企業と世界との繋がりを知る	○				○	○			
11	5	○				政治・経済（国際政治）	戦後の国際関係、国際政治の課題を理解する	○								○
11	5	○				選択基礎中国語(交流)	地域に暮らす中国人との交流を通じて日本の生活を見直す	○	○							
11	6	○				倫理	「グローバル化する社会の中の人間」として、先哲の思想を学ぶ	○								
11	4-5			○		マンママー訪問	イカ・ソウダ・アホサグー事業でマンママーを視察、ホームステイ	○	○							
12	2			○		職場訪問発表	効果的に伝える方法を学ぶ							○		
12	3			○		道外見学旅行	オールイグ リックで生活を行う（福島県プリティッシュビルズ）	○								
12	4-5			○		海外見学旅行（アメリカ・カナダ）	アメリカ・カナダで英語研修を行い帰国後に4回生に向けて報告	○								
1	3			○		異文化理解講演	海外で活躍された方の講演を聴く	○								
1	3			○		世界と日本関わり発表準備	世界と日本の関わりについて調査する	○	○							
1	4-5			○		SGH課題研究最終発表	自ら課題を設定し調査研究を行った内容についての発表			○						
1	1-6			○		書讀じハガキ回収	生徒会による「世界寺子屋運動」、室蘭ユネスコ協会と連携									
2	1	○				音楽（オーケストラ）	曲の情景となる歴史、文化を理解する	○								
2	1-5			○		マンママー訪問団受入れ	歓迎セレモニーでの文化紹介、交流授業など	○	○							
2	5	○				政治・経済（国際経済）	国際関係、国際経済・国際金融の課題を理解する	○								
3	2	○				社会・理科	日鋼室蘭製鋼所見学、青少年科学館体験学習						○	○		
3	3			○		世界と日本関わり発表	効果的に伝える方法を学び実践する									
3	4-5			○		SGH中間成果発表会	自ら設定した課題について考察したことをグループ毎に発表	○								

4 成果と課題

開校10周年を迎え、卒業生には国内や海外で活躍する人材も見られ、在校生が活動に取り組む様子からも「郷土愛と国際性」が醸成されていることがわかる。教職員全体がESDの視点を持ち、変化する国内外や地域の情勢に合わせて活動内容を検討・改善し続けることが今後の課題である。